

Sustainable Report No.062

自ら栽培した農作物や 釣った魚を缶詰に

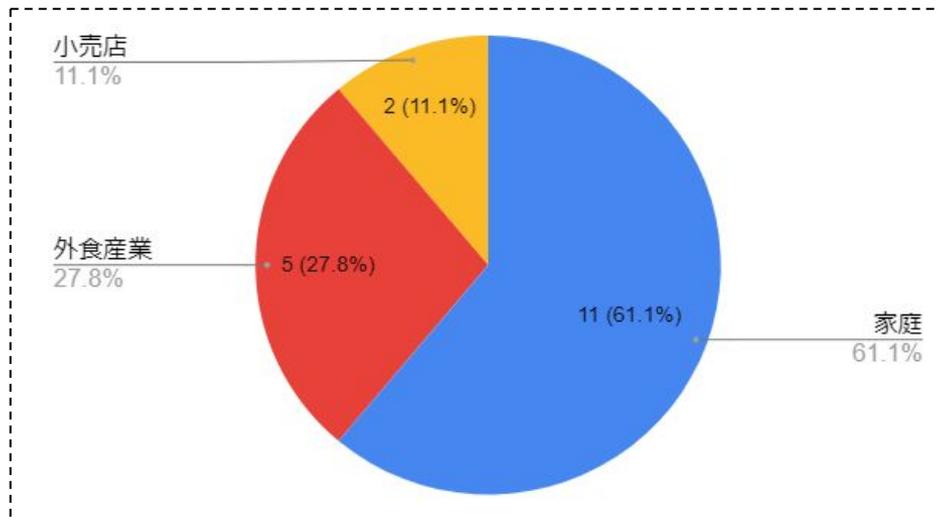


サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

- 2019年に世界で販売された**食品の17%にあたる9億3000万トン以上は廃棄**された。その内、家庭で発生するロスが11%を占める。
- 開発途上地域では**保存・貯蔵する設備が足りず**に**食料が劣化**してしまうため、食品が必要な人に行き届かない事態が背景にある。
- 日本を含め先進国では、地球資源を無駄にしないよう**食品廃棄を減らす活動が活発化**している。

■ 2019年世界で販売された食品ロス17%の内訳



グラフ: UNEP「FOOD WASTE INDEX REPORT 2021」をもとに筆者作成

■ 日本国民1日1杯分の食糧が廃棄



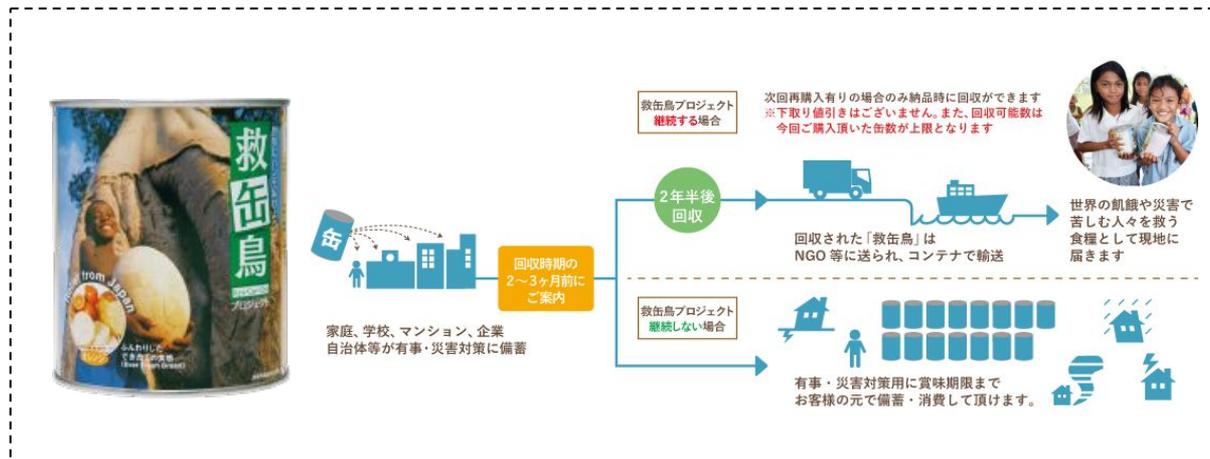
出典: 農林水産省・環境省調べ、FAO、総務省人口推計(2017年)

▶NEXT: 義援物資になる世界初のパンの缶詰

■ 実行者／解決方法／残る課題

- 栃木県那須塩原市でパン販売店を営む株式会社パン・アキモは、**阪神淡路大震災後に寄付したパンが廃棄**されてしまったことから保存技術の開発を進めた。
- 「救缶鳥」プロジェクトを2009年に立ち上げ、企業などの**災害備蓄品にパンの缶詰**を販売。2年半後に回収し、NGOを通じてケニアなど**飢餓地域に届ける**。
- 1缶500円前後を超え、**高価格帯**といえる。その要因は、防腐剤を使わない独自製法の設備投資や、販売後の回収運搬費が考えられる。

■ 「救缶鳥」プロジェクトスキーム



■ 代表取締役 秋元義彦氏



出典: 株式会社パン・アキモト

▶NEXT: 加工技術の革新で保存期間の延長へ

■ 弊害の原因／理想／企業施策

- 限られた従業員と施設で営む事業者が、スケールメリットを追求する**大量生産への急転換は難しい**。大手メーカー企業との協働で大規模な設備と販売・回収経路を確保するにも立場が弱くなりやすい。
- これらを踏まえ、個人・小規模事業者向けの缶詰プロジェクトがヒントになるのではないかと。**近隣の農業や漁業の生産現場の過剰分も缶詰に**できれば、地域活性化を図りながら設備稼働を高められる。
- 個人ではハードルが高い事も、国の支援のみならず**事業者同士の連携**で技術開発や工場開発が促進されて新たな商品サービスが生まれるだろう。

■ 缶詰事業に最低限必要な設備5台



出典：株式会社浪速工作所

■ 小ロット缶詰プロジェクト



最小15坪の場所で、1日100個から生産可能。小ロット製造で様々な事業者が自ら缶詰を製造・販売することができる。

出典：株式会社浪速工作所

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- UNEP,「FOOD WASTE INDEX REPORT 2021」,2021年3月4日(<https://www.unep.org/resources/report/unep-food-waste-index-report-2021>)
- 農林水産省,「aff10」より「食品ロスの現状を知る」,2020年10月(https://www.maff.go.jp/i/pr/aff/2010/spe1_01.html)
- 株式会社パン・アキモト,公式ホームページ,2022年10月26日参照(<https://www.panakimoto.com/index.html>)
- 株式会社浪速工作所,「はじめよう、小さな缶詰工場プロジェクト」,2022年10月26日参照(<https://www.canzume-koujyou.com/>)
- 株式会社浪速工作所,公式ホームページ,2022年10月26日参照(<https://naniwakousaku.co.jp/>)
- 静岡朝日テレビ,「日本初「富士宮焼きそば」の缶詰…開発のきっかけは『上司の無茶ぶり』協力した食品メーカー社長も『ノリで受けた』 静岡市」,2022年8月18日
(<https://news.yahoo.co.jp/articles/a906a5ef4f2d090cf3e2c5761884791d955309be>)
- 株式会社ホテイフーズコーポレーション10月(<https://www.hoteifoods.co.jp/>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社小川電機に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。